



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2011.6

No. 326

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



オジロビタキの越冬個体に対する考察

長嶋宏之(蓮田市)

1 はじめに

今年1月4日「さぎ山記念公園探鳥会」の折、オジロビタキが出たのは記憶に新しい。

このオジロビタキについて、『日本鳥類目録改訂第6版(以降第6版)』には、亜種オジロビタキ(*Ficedula parva albicilla*)とは別に、「検討中の種・亜種」として *Ficedula parva parva* (亜種ニシオジロビタキ) が記載されている。さらに、大西敏一氏(『日本の野鳥590』の解説者)からは、「日本で越冬するオジロビタキの大半はニシオジロビタキであると考えられる」との一言をいただいた。



亜種オジロビタキ 1W 於青島 2008.10 大西敏一

では、「さぎ山記念公園のオジロビタキはどちらの亜種なのか」「過去、埼玉県内で見られたオジロビタキはどちらなのか」。そこで、友人諸兄から提供していただいた写真に基づき検証を試みた。結果を以下に報告する。

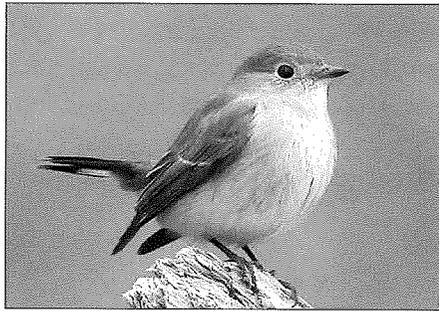
2 亜種オジロビタキと亜種ニシオジロビタキの主な識別ポイント

図鑑や資料を基に、望遠鏡や写真によって観察できる主な識別ポイントを表-1にまとめた。なお表の中では、亜種オジロビタキを東、亜種ニシオジロビタキを西とした。

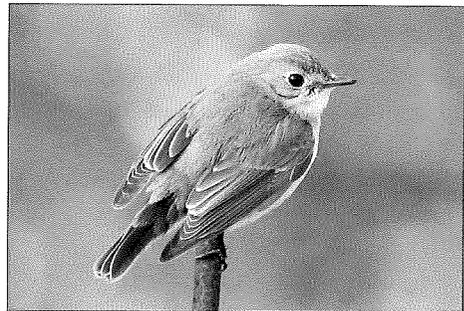
表-1

(1W: 第1回冬羽、1S: 第1回夏羽、2S: 第2回夏羽)

嘴	西	雄雌年齢に関わらず下嘴が肉色で先端だけが黒く、基部から先端に向かい徐々に細くなる(参考例: コサメビタキ)。
	東	雄雌年齢に関わらず嘴が黒い。下嘴の基部だけが小さく肉色の個体がたまにいる。基部から先がほぼ同じ太さで、先端で細くなる。いわゆる Bulky な感じ。
喉	西	雄は2Sで喉がオレンジ色になり、胸まで達している。成鳥雌と1Wはバフ色味が強い。
	東	雄は1Sで喉がオレンジ色になり、喉の部分だけがオレンジ色(ただし、モンゴルには胸までオレンジ色の個体が出て、話題となっている。P4参照)。成鳥雌と1Wの喉は白色味が強い。
胸と腹	西	成鳥雄の喉を縁取る灰色の胸帯が無い。腹部にバフ色味がある。
	東	成鳥雄の喉を縁取る灰色の胸帯がある。腹部に灰褐色味がある。
上尾筒	西	最長上尾筒の色が雄雌とも幼鳥のときから中央尾羽よりも淡い。
	東	最長上尾筒の色が雄雌とも幼鳥のときから中央尾羽よりも黒い。
翼帯	東西	成鳥は目立たないが、1W~1Sは雄雌とも大雨覆に褐色の翼帯がある。
三列風切	西	淡褐色の羽縁があり、羽先にバフ色味が強い小さなクサビ形の斑がある。磨耗していると、見分けが難しい。三列風切の羽縁は次列風切の羽縁と同じ淡褐色をしている。
	東	羽先のクサビ形斑は大きめで、クリーム色味を帯びた白色もしくは淡いバフ色。磨耗していると見分けが難しい。三列風切の羽縁は、次列風切の羽縁よりも白く目立つことが多い。
成鳥雄の頭部の色	西	頭部に灰色味がある。頭頂と後頭も灰色味を帯びる。
	東	褐色味がある。



亜種オジロビタキ 1W 智光山公園 2009.12
堀 利行



亜種ニシオジロビタキ 1W 千葉県松戸市 2011.2
三間久豊

3 埼玉県内での識別結果

識別にあたり多くの友人より写真の提供を受けた。観察場所は埼玉県内で7箇所、埼玉県外の国内は12箇所である。さらに、亜種オジロビタキの特徴を把握する為に、外国の4箇所で見学した写真の提供を受けた。この提供された写真593枚の中から識別用に62枚を選び、識別を試みた。本稿では県内での識別結果のみを表2に示す。

表2

(Ad:成鳥)

No.	撮影場所(年月日)	年齢	性	識別ポイント						識別結果
				嘴	喉	上尾筒	胸腹	翼帯	三列風切	
1	久喜菖蒲公園 (031227)	1W		○	○	○	○	○		西
2	久喜菖蒲公園 (031227)			○	○		○	○		
3	久喜菖蒲公園 (031227)			○	○		○			
4	岩槻城址公園 (040128)	1W		○	○		○			西
5	岩槻城址公園 (040128)				○			○		
6	岩槻城址公園 (040128)			○	○		○	○	○	
7	岩槻城址公園 (040128)				○	○	×	○		
8	岩槻文化公園 (041218)	1W		○		○		○	○	西
9	岩槻文化公園 (041218)			○	○		○			
10	岩槻文化公園 (041218)			○	○		○			
11	大宮市民の森 (060211)	Ad	♀	○	○		○	○		西
12	大宮市民の森 (060325)			○	○	○	○			
13	大宮市民の森 (060325)			○	○	○		○		
14	智光山公園 (091218)	1W				×		○	○	東 *1
15	智光山公園 (091218)					×		○	○	
16	智光山公園 (091218)			○	○		○	○		
17	智光山公園 (091218)					○	○	○	○	
18	さぎ山記念公園 (101227)	1W		○	○	○				西
19	さぎ山記念公園 (101227)			○		○		○	○	
20	さぎ山記念公園 (110103)			○		○		○		
21	さぎ山記念公園 (110106)			○	○		○			
22	寺尾調節池 (110117)	1W		○	○	○	○	○	○	西

○：識別結果の根拠となった点、×：識別結果と矛盾する点（違う写真では○になっていることもある）。

*1: 上面に灰色味が少なく、下面も白っぽい写真があり判断に不安が残る。今回は東と判断したが、今後、更に明確な写真や地鳴きの声が提供された場合、変更の可能性もある。

4 検証結果

- ① 埼玉県内で観察された個体の内、智光山公園で2009年12月に観察された1個体が亜種オジロビタキ 1W の可能性が高い。その他の観察場所の6個体は亜種ニシオジロビタキであった。
- ② 県内における越冬期のオジロビタキは、7箇所の観察場所中6箇所が亜種ニシオジロビタキであり、大西氏の考えと一致した。

5 考察及び課題と問題点

- ① 写真による識別は迷う事が多くあった。今後更に識別に適した写真や地鳴きの声の提供があった場合は、識別結果の変更もありうる。
- ② 寄稿するにあたり、県外や中国大陸の東側と日本海側の島嶼との比較、国外でのオジロビタキの検証も行った。発表は別の機会に譲るが、「国内における越冬期のオジロビタキはその大部分が亜種ニシオジロビタキである」との説がより確実になるものとする。

6 その他

- ① 最近の研究では亜種オジロビタキと亜種ニシオジロビタキはそれぞれ独立種であるとの説がある。
- ② 最近の研究では亜種オジロビタキと亜種ニシオジロビタキは地鳴きがはっきり違うので、鳴き声で識別できるという説もある。亜種オジロビタキ：「ジジジ」「ジリジリジリ」、亜種ニシオジロビタキ「ビティティティ」「ビジジジ」

7 お世話になった友人(敬称略)

この稿をまとめるに当たり、大西敏一氏、三間久豊氏には有効な助言を頂くなど、大変お世話になりました。また、下記の29名の友人が写真や資料を提供して下さいました。誌上を借りてお礼申し上げます。

Bill Man (文権溢)、Kurdiukov Alexey、浅見徹、岩田弘之、榎本秀和、海老原美夫、大西敏一、太田博、門脇進、川内博、北野寿美、久保田忠資、小林昌夫、小峯昇、今野紀昭、酒見希代子、高山直子、名尾良英、長野誠治、祢津英彦、藤掛保司、古江之人、星 進、堀利行、松原卓雄、松村禎夫、三間久豊、山田東二、米澤正勝

《 引用文献 》

Christ Cederroth et al. (1999) Taiga Flycatcher *Ficedula albicilla* in Sweden: the first record in western Europe

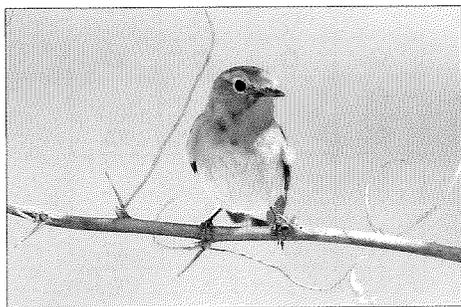
Lars Svensson (2010) COLLINS BIRD GUIDE 2ND EDITION. Trento. Italy

真木広造・大西敏一(2000) 日本の野鳥590 平凡社 東京

Mark Brazil (2009) Birds of East Asia. Princeton Univ. Press, London.

日本鳥学会(2000) 日本鳥類目録改訂第6版 日本鳥学会 帯広

茂田良光(2008) オジロビタキの分類・最新情報 BIRDER 第2 2巻第5号: 48-48



亜種オジロビタキ Ad♂ モンゴル 2009.5. 三間久豊

野鳥記録委員会最新情報

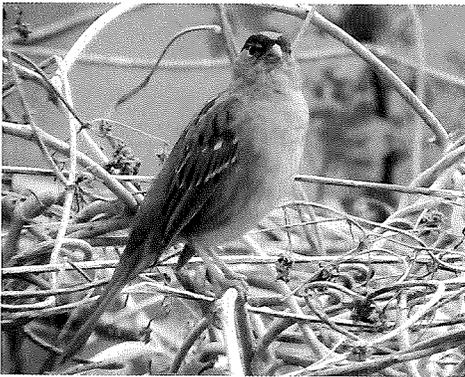
●キガシラシトド

分類 スズメ目ホオジロ科ミヤマシトド属

学名 *Zonotrichia atricapilla*

英名 Golden-crowned Sparrow

2011年4月3日(日)、川口市行衛(ぎよえ)地区でキガシラシトド1羽が発見され、同月16日(土)までの2週間、多くの人に観察撮影されました。一例として4月10日(日)、海老原美夫が撮影した写真を示します。

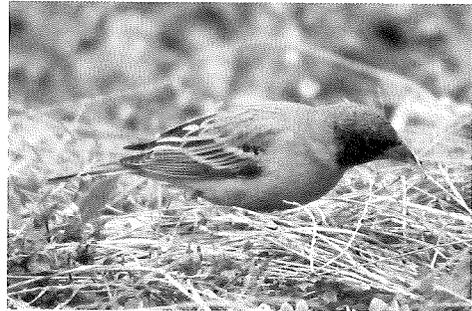


本種は全長17cm、その名の通り頭中央線の幅広い黄色が特徴で、北米大陸西端近くの地域を季節によって移動、冬はアラスカ西端、夏はメキシコ北部にまで渡ります。日本には極めてまれな迷鳥として飛来し、日本鳥学会刊『日本鳥類目録改訂第6版 2000』によれば、1935年12月東京、1980年1月佐渡、1986年5月新潟、1997年5月粟島、4例の記録があります。

平凡社刊『日本の野鳥 590』には、本種は「飼い鳥としても輸入されており、かご抜けの可能性もある」とありますが、今回観察された個体の形状、行動などにかご抜けを疑わせる点は特に見出せないことから、県内野鳥確認種リストに記録することにしました。

●ズグロチャキンチョウを再検討

本誌2010年5月号で当委員会は、2010年3月14日～17日蓮田市で観察写真撮影されたズグロチャキンチョウ(写真右上、撮影:長嶋宏之)につき、「かご抜けの可能性を考えて、



確認記録種リストに入れることを保留する」としました。

本種についても前同図鑑は、「飼い鳥としても多く輸入されており、かご抜けの可能性も高い」としていますが、キガシラシトドを確認種リストに入れる際に「かご抜けを疑わせる点は特に見出せない」ことをひとつの根拠にしたことから、本種についても同じ基準を適用すべきであるとして再検討、県内野鳥確認種リストに記録することにしました。

ところが本種は、2010年4月15日付け読売新聞に、同年2月27日三郷市で観察撮影されたと、同定可能な写真を添えた記事が掲載されています。従って観察日付の順では、2010年2月27日三郷市が最初の記録、2010年3月14日蓮田市が2例目となります。

前同目録によれば本種につき、1928年11月と1930年11月八丈島、1985年10月渡嘉敷島、1985年12月与那国島、1988年5月飛島、5例の記録があります。

県内野鳥確認種リストは、キガシラシトドとズグロチャキンチョウを入れて、325種となりました。

●サカツラガンは引き続き確認保留

なお、同様に記録保留されているサカツラガンについては、近隣飼育施設からの飛来が考えられること、野生とは思えないほど人に馴れている様子が報告されていることなど、かご抜けであることを疑うべき点があることから、確認保留を継続します。



野鳥情報

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇2月8日、シロハラ2羽、カケス2羽+ (小林みどり)。

蓮田市黒浜沼周辺 ◇2月8日、梅林のアカゲラ2羽はつがいのようだ。田んぼを耕耘しているトラクターの後ろをツグミ2羽、タヒバリ2羽、ムクドリ3羽が餌探し。屋敷林でカワラヒワ50羽土が羽を休めていた (長嶋宏之)。

久喜市菖蒲町上大崎 ◇2月8日、ミヤマガラス約200羽の群れ中にコクマルガラス暗色型7羽、淡色型4羽、ホオアカ1羽 (鈴木紀雄)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇2月9日、子供の森でノスリ1羽が低空飛行。上空にはヒメアマツバメ。ピクニックの森でアカゲラ♀1羽♂1羽。アリスイ2羽が追いかけ合い。トラツグミが飛んだ。2月14日、子供の森でアカゲラ♂1羽。ツミ♀1羽が樹冠にとまっている所をマヒワがモビング。トラツグミ2羽が芝生で採餌 (鈴木紀雄)。

行田市持田 ◇2月10日午後2時頃、カインズホームの上空で1羽のノスリが5~6羽のカラスにモビングされていた (寺山聖二)。

さいたま市緑区芝川 ◇2月13日、東武野田線~見沼大橋間でゴイスギ成鳥1羽、オカヨシガモ♂5羽♀3羽、ハシビロガモ♂エクリプス1羽♀1羽、バン5羽、オオバン1羽、カワセミ1羽、アオジ1羽、オオジュリン2羽、ハシブトガラス1羽、「パパゲーノの歌」のように「パ、パ、パ、パ…」と鳴く。Pの音も出せるとは知らなかった (小林洋一、小林みどり)。

吉見町八丁湖 ◇2月13日午後2時頃、岸辺のすぐ近くでタマシギ♂♀ (本多久文子)。

さいたま市緑区大門 ◇2月14日、遊水池のアシ原の中にチュウヒ (おそらく♂成鳥) がおりて佇んでいた (鈴木紀雄)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇2月14日、オナガ15羽+がツバキの木に群れていて、飛び立

つ時にシロハラも飛び出した。カケスが2羽、ふわふわと榎の木の中に飛び込んだ。ここでは珍しくホオジロ4羽が草原で採餌。コジュケイが毎朝鳴くようになった。2月21日、ジョウビタキ♂が道案内。林床でシロハラが落ち葉をひっくり返して餌を探していた。アカゲラがシデの木を枝移り。オオタカが空を舞って屋敷林に入った。2月25日、エナガ、シジュウカラ、コゲラ、メジロの混群がクヌギの林を渡って行った。エナガが先頭でシジュウカラが続き、最後にコゲラが幹を縦に登りながら続いた。竹林からコジュケイの音が響き、シジュウカラが盛んにさえずり、越冬中のキタテハが舞った。春を感じた1日だった (長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇2月15日、アリスイ1羽。2月20日、夕暮れ時にホオジロがさえずり。アリスイがブッシュの中を動き回っていた。アカハラ、エナガなど。2月21日、「ケキョキョ」とウグイスのぐぜり。シジュウカラのさえずり。マヒワ30羽、エナガ、ヤマガラ、アカハラなど。2月24日、アオサギ、コガモ、ヒドリガモ、イソシギ、セグロカモメ、カワセミ (声)、アカゲラ♀、ジョウビタキ♂♀、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ヤマガラ、カシラダカ、アオジ、マヒワ、シメ、カケスなど36種。2月25日、上空でツミとノスリが絡み合っていた。3月2日、久しぶりにアリスイ確認 (鈴木紀雄)。◇3月6日午前9時45分、臨時駐車場そばの高い木に南の方からヒレンジャクの群れが飛来。しきりにフライキャッチのような動作を繰り返す。よく見たら、群れの周りにユスリカ?の蚊柱がいくつも立っていて、その固まりに突っ込んでいた。ヒレンジャクのフライキャッチを見るのは初めて。全部で15羽。10時15分に飛び立ち、北の方角に去る。アリスイの声、マヒワの群れ、アカゲラ♀1羽、エナガ2羽、ウグイス、ジョウビタキ♀など (藤原寛治)。

北本市北本自然観察公園 ◇2月20日、ルリビタキ♂1羽、コガモ、マガモ。桜堤近くの梅林でヒレンジャク10羽+。しばらく樹

上にいたが、その後、地面に降りて、ジャノヒゲの青い実をものすごい勢いで食べる。ひとしきり食べた後、飛び去る。入口近くの木道を通った奥の梅林でキレンジャク4羽、ヒレンジャクと同じくジャノヒゲの実を食べていた。飛び去るときに数えたら5羽だった。他にアカゲラ♀1羽、タシギ、カワセミなど(藤原寛治)。◇2月26日昼過ぎ、キレンジャク2羽、ルリビタキ♂、カワセミ、エナガ5~6羽、オオタカなど(本多己秀・久文字)。

越谷市健康福祉村 ◇2月22日、樹冠で「ギィウィ〜ン」と鳴くマヒワ♀1羽。池でユリカモメ150羽の群れの中にセグロカモメ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区上野田 ◇2月22日、田んぼでタゲリ7羽(鈴木紀雄)。

羽生市羽生水郷公園 ◇2月23日、ヨシガモ♂1羽、オカヨシガモ♂3羽♀3羽、カルガモとコガモ、オオバン等多数。ベニマシコ♀1羽、オオタカが空を舞い、ヒバリ数羽がさえずっていた。その他ホオジロ、カシラダカ、ツグミ、オオジュリンなど多数(長嶋宏之)。

加須市下谷 北緯36.1473° 東経139.6009°
◇2月23日、コクマルガラス50羽士がカラス柱を作って北東に流れた。コクマルガラスだけの群れは珍しい(長嶋宏之)。

久喜市菖蒲町小林 北緯36.0559° 東経139.5695° ◇2月25日、ミヤマガラス56羽が電線にとまっていた(長嶋宏之)。

蓮田市黒浜 ◇2月24日、上沼のアシ原でベニマシコ♂1羽、黄土色のアシ原の中の紅が鮮やか! (鈴木紀雄)。◇2月27日午前10時頃、国立東埼玉病院でハイタカ、アカハラ、シロハラ、カケス、ジョウビタキ、カシラダカ20羽など。3月5日午前10時30分頃、エナガ、シロハラ、ジョウビタキ、シメ、カシラダカ、カケスなど(本多己秀)。

さいたま市岩槻区馬込 ◇2月24日、赤坂沼で1ヶ所にハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイがそろい踏み。ゴイサギ若鳥が大きな食用ガエルをくわえ、食べあぐねていた。その上空をオオタカ通過(鈴木紀雄)。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇2月26日午前11時、ビオトープ内水路右岸雑木林で、亜種ハチジョウツグミ1羽。左岸遊歩道側より観察。明るい褐色の個体でした(増尾隆、坂口稔)。

所沢市山口 ◇3月1日午後3時頃、所沢市山口のニュータウン内遊歩道でマヒワ12~13羽の群れが、道の両側地面で採餌していた。15秒ほど見ていたのだが、歩行者に飛ばされてしまった。残念(小林ますみ)。

さいたま市岩槻区長宮 ◇3月1日、物流センター予定地の草地でオオジュリンだらけの中、コジュリン4羽、ホオアカ3羽など。3月5日、同所でコジュリン1羽、ホオアカ7羽。ホオアカは近い距離に数羽がいることが多く、渡りの群になりつつあるのかと考えている(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区野孫 ◇3月1日、久々にケリ2羽(鈴木紀雄)。

蓮田市根ヶ谷戸公園 ◇3月2日午前7時、マヒワ2羽、ツグミ7羽、シメ6羽など(本多己秀)。

蓮田市西城沼公園 ◇3月2日、アオゲラがシデの木を登り、屋敷林に消えた。ハシブトガラスが小枝を啜って飛んでいく。巣造りを始めたようだ。沼に張り出た桜の枝からカワセミが何度もダイビング(長嶋宏之)。

坂戸市鶴舞樹林 ◇3月5日午前9時30分、ヤブランの実を採食しているヒレンジャク1羽。毎年50羽前後の群れで飛来するが、今シーズンは1羽だけ。3月10日も見られた(坂口稔、増尾隆)。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇3月5日午前9時50分、クロジ1羽、藪から出てくる。そばの木立にメジロ、シジュウカラ、コゲラ。10時15分、遊歩道際の高木にイカル20羽+の群れ。一斉に水路の水ぎわに降りて、水を飲んでいた(坂口稔、増尾隆)。

表紙の写真

ツル目クイナ科バン属バン

バンの幼鳥の顔って良く見ると……。でも、親にとってはかけがえのない可愛い子なんです。 蟹瀬武男(さいたま市)



行事案内



ココシキリ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生50円、一般100円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月4日（土）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8:15→坂戸で越生線乗り換え8:38発。または寄居7:38→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR川越線大宮7:35→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、青山、久保田、志村、杉原、高草木、高橋（優）、藤掛、藤澤、増尾、持丸

見どころ：初夏の身近な野鳥を楽しめます。ホトトギスやオオヨシキリたちも歓迎してくれます。昨年は猛禽類が3種楽しめましたが、今年も期待しましょうか。



5月5日谷津干潟探鳥会

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月5日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口「住まいの情報館」前から、「北里メディカルセンター病院」行き8:31発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野、山野、飛田、吉原（早）、相原（修）、相原（友）、長谷川

見どころ：東日本大震災に心を痛めて早くも3ヶ月が過ぎようとしています。緑も輝きを増して、声はすれども姿は見えずの探鳥の時季になりました。こんな時は心穏やかに、声を頼りに探します。カッコウの声が遠くから聞こえてきますよ。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：6月5日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、「東川口駅北口」行き8:37発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤（芳）、須崎、倉林、若林、新井（勇）、赤堀、藤田（敏）、野口（修）、大井

見どころ：間もなく入梅。陽光に映える木々の中を、巣立ち雛たちが飛び回っています。

す。身近な鳥をじっくりと観察します。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51発に乗車。

担当：千島、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、鶴飼
見どころ：葉が茂り鳥の姿が見えにくくなりました。鳥たちは子育ての真っ最中です。幼鳥の可愛い姿を探しながら河原まで歩きます。ホトトギスや、にぎやかにさえずるオオヨシキリにも会えると嬉しいですね。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月18日(土)午後3時～4時ごろ

会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、増田、宇野澤、須崎、船木、畠山、柴野

見どころ：今年も見沼田んぼに緑が一面に広がっています。東日本大震災を心にも留めながら、一緒に元気になりたいと願います。カッコウの声もオオヨシキリの声も、一段と心に響く探鳥会です。ぜひどうぞ。

日本野鳥の会埼玉・総会のご案内

日時：6月26日(日)

午後1時 受付開始

午後1時30分～3時 記念講演

午後3時～4時30分 総会

会場：さいたま市民会館うらわ(さいたま市浦和区仲町2-10-22)7階705-706集会室。

交通：京浜東北線浦和駅西口から県庁通り

を西へ。埼玉会館手前角右折。玉蔵院を通り抜けて約400m左側。徒歩約10分。記念講演：財団本部佐藤仁志副会長。テーマは『探鳥会のリスクマネジメント』。総会議題：平成22年度事業報告と決算報告、平成23年度事業計画と予算案、平成23年度役員の選出。

参加資格：会員であればどなたでも参加できます。前年度の活動を振り返り、新年度の予算や方針を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。

◆総会後には、会事務局内での懇親会も予定しています。

イソヒヨドリを見ました

田島利夫(深谷市)



日本野鳥の会埼玉に入会して1年あまりの70歳です。

4月7日、大震災のため、探鳥会が中止になり、さびしく一人でカメラを持ち、深谷市荒川の六堰に出掛けました。

そこで、今までに見たこともない鳥をカメラに収めました。

自宅に戻り図鑑で調べ、イソヒヨドリと判明。「海岸の鳥」と図鑑にありました。

「こんな奥の川で見られるのは珍しい」と先輩の皆さまから教えていただきました。探鳥会の再開を楽しみにしています。



行事報告

1月10日(月、休) 春日部市 内牧公園

参加：36名 天気：快晴

ダイサギ コサギ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 開始前から集合場所でハンノキの雄花(雄蕊)を啄ばむマヒワの群れを観察。真っ青な空に映える黄緑の羽色と風に煽られながらも何度か上空を舞ったオオタカが印象に残った。マヒワは当探鳥会初記録。(石川敏男)

1月23日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加：44名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ハイタカ クイナ オオバン タマシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 始まるとすぐに、ベニマシコ♂が皆を歓迎。しばらく進むとハイタカがアシ原で入ったり出たり。直後にオオタカが青空を舞う。沼でカモ、オオバン、カイツブリそしてカワセミを観察。田んぼに出るの休憩地点で「タシギらしい……」と参加者。よく見るとなんとタマシギ。ほぼ全員が観察でき、歓声をあげた。雑木林ではキセキレイの姿とウグイス・シロハラの声、グラウンドではトラツグミを、そしてホテルの里ではクイナを観察。小さな鳥たちがいつもより少なかったが、珍客も出て、中身は濃かったか? (田中幸男)

1月23日(日) 狭山市 入間川

参加：27名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ノスリ オオバン イカルチドリ イソシギ セグロカモメ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ シロハラ ツグミ ウグイス セッカ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) (番外：ドバト) 相変わらずカモの種数が少ない。近年多くて4種。5種類以上のカモが見られたのはいつだったか。稲荷山公園では、シロハラ、ビンズイ、アオゲラ、それに、今季は数が多いのかマヒワも見られた。名前は入間川探鳥会だが、山の鳥たちに楽しませてもらった。

(長谷部謙二)

1月27日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加：45名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オナガガモ トビ オオタカ ノスリ チュウヒ キジ バン オオバン キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ シベリアジュリン オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) (番外：ドバト) スタートすると早速ベニマシコがその華麗な姿を見せてくれた。しばらく進むと突然地面からオオタカが飛び立った。足には獲物をぶらさげ、その様子は迫力満点だ。「オー」という声が上がった。三田ヶ谷池では、カモが少なく残念。しかし、その分カカ類がよく出て皆を喜ばせてくれた。最後はキジが出て、場を盛り上げてくれた。(中里裕一)

2月5日(土) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加：40名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ノスリ コジュケイ キジ バン オオバン イカルチドリ クサシギ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ

ヒヨドリ モズ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) (番外: ガビチョウ) 蝶の里でトラツグミが出現し、盛り上がる。また、ヤマガラが電柱や電線に止まっているところも観察。ホテルの里では、シメやカシラダカ、ガビチョウの姿が。都幾川ではイカルチドリ、キセキレイ、バン、また樹上に止まるノスリを観察。最終地点の学校橋下ではタヒバリが見られた。(後藤康夫)

2月6日(日) 北本市 石戸宿

参加: 46名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ コジュケイ クイナ バン キジバト カワセミ アリスイ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ キレンジャク ヒレンジャク ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外: ガビチョウ) レンジャクが来ているため、駐車場が満車になってしまった。公園側のご好意で予めバスの駐車スペースの一部を探鳥会参加者に開放して下さったので、利用させて頂いた。レンジャク、ルリビタキ(オス)は、ほぼ全員が見られ、リーダーとしても満足。シロハラが多い。しかし、カシラダカが少ない。カモ類もコガモ、マガモ、カルガモが少しと、数も種数も少ない。(吉原俊雄)

2月6日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 71名 天気: 晴、曇

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オオタカ ハイタカ ノスリ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ バン オオバン イカルチドリ セグロカモメ キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソ

ガラス ハシブトガラス (44種) 風も無く、絶好の探鳥日和。今回も猛禽(タカ)類が6種と大当たり。調節池の工事がひと段落したためか、鳥の種類が増えている気がする。環境が変化し、鳥たちにとって過ごしやすくなり、以前にいた種類が帰ってきてくれたり、新しい種が増えてくれたりするといいいのだが。(伊藤芳晴)

2月6日(日) 狭山市 智光山公園

参加: 53名 天気: 曇

カイツブリ ゴイサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ カケス ハシブトガラス (32種) (番外: ドバト) 年1回の探鳥会開催ながら、過去毎回のようにヒーロー(ヒロイン?)が出現している。今回はトラツグミ。しかも、開けた場所に出てくれたので全員でじっくり観察、大いに盛り上がった。毎回思い出を作ってくれる楽しいフィールドだ。

「物陰で 無心に餌を採る トラツグミ 名にはそぐわぬ 優しき仕種」 (石光 章)

2月10日(木) 戸田市 彩湖

参加: 34名 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ ヨシガモ キンクロハジロ ミサゴ トビ ノスリ オオバン イソシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ マヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) (番外: ドバト) 少々風が冷たい。池のそばでシメ、モズを見て湖岸へ。管理橋の上でミサゴが西から東へ。橋を渡って北へ進む。どこかの高校生のマラソン大会らしくて、北から走ってくる。足音で小鳥は出てこない。トビ、ノスリが出て一息つく。ヨシガモはどこに行ったか3羽だけ。若者たちが去った後、やっと小鳥たちが見られた。終了近くにユリカモメの群れが北から現れた。

(倉林宗太郎)



●探鳥会再開しました

4月17日(日)さいたま市三室地区定例探鳥会以後すべての探鳥会を平常通り開催しています。

まだ大きな余震の可能性があります。十分ご注意ください、お集まりください。

●「公益財団法人日本野鳥の会」に

4月1日、「財団法人日本野鳥の会」は「公益財団法人日本野鳥の会」になりました。

会長は引き続き柳生博(評議員)がつとめ、副会長佐藤仁志は引き続き副会長で、法人代表者(理事長)に就任しました。

評議員6名で構成される評議員会は、理事監事の選任解任、会の運営に大きな影響がある事項について意思決定を行います。

理事4名で構成される理事会は、会の業務執行に関する意思決定を行います。

●会員の普及活動

1月22日(土)、春日部市武里大枝公民館と春日部市生涯学習地域推進員共催の谷原親水公園周辺野鳥観察会で、石川敏男・橋口長和・吉安一彦・野村弘子・進士悦行が指導しました。

●今年も「ヒナを拾わないで！」

野鳥のヒナが地上にいても、拾わないでください。落ちていてではなくて、降りているのです。迷子になっているのではなく、親鳥が近くにいて、人がいなくなるのを待っているのです。ヒナをそのままにして、できるだけ早くその場から離れてください。ネコやカラス、車などが心配なら、ヒナを近くの茂みなどに移動することはできます。親鳥はヒナの声で居場所がわかりますから。

人が鳥のヒナを、自然の世界で生きていけ

るように育てることはできません。何とか元気に育つと祈りながら、そのままにしておきましょう。

本部のホームページ、「当会の活動」>「普及教育」>「ヒナを拾わないでキャンペーン」で詳しく説明しています。

●ごめんなさいコーナー

前号本欄「活動と予定」中の「4月の予定」は「5月の予定」でした。

●会員数は

5月1日現在2,001人。

活動と予定

4月9日(土) 5月号校正(海老原美夫・大坂幸男・小林みどり・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司)。

4月17日(日) 役員会(司会:榎本秀和、各部の報告・行事の再開・その他)。

4月18日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け5月号を発送(倉林宗太郎)。

●6月の予定

6月4日(土) 編集部・普及部・研究部会。

6月11日(土) 7月号校正(午後4時から)。

6月18日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

6月19日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

3.11以降どうも気力が沈滞気味で、万歩計の数字も上がらない。被災地の人たちは頑張っているのに……。そろそろ Chin up! でいかなくちやあ。(山口)

5月1日現在、いつものアオバズクが確認できていない。今年は珍鳥の当たり年のような気もするが、いつものなじみがいつものように来てほしい。(山部)

隣家の戸袋にムクドリが出たり入ったり。1羽は顔の白さがやけに目立つ“バカ殿顔”。ヒナの誕生が楽しみ。(み)

しらこぼと 2011年6月号(第326号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 日本野鳥の会 会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社